

徳山高専平成26年度 年度計画	徳山高専平成26年度計画の具体的な課題・取組	中期ビジョンと年度計画との対照	自治体総合計画と年度計画との対照
独立行政法人国立高等専門学校機構(以下「機構」という)の中期目標を達成するための計画(中期計画)に基づき、平成26年度の業務運営に関する計画を次のとおり定める。			
1 教育に関する事項			
(1) 入学者の確保			
① 入学志願者の学力水準の維持及び志願者確保のため、中学校などを中心に、広く社会に向けてPR活動を行う。	<p>○機構本部が纏めた「入学者の学力把握状況調査」、「入学志願者確保対策取組調査」を参考に、入学志願者確保のための取組を企画、実施する。</p> <p>○中学校別志願者・合格者・入学数推移を分析し、現状を教員に周知する。</p> <p>○年間のPR計画を立案し実行する。</p> <p>○山陰や県西部地域の中学校訪問を実施する。</p> <p>○宇部高専、大島商船高専と合同で、下関市、山口市、岩国市で学校説明会を実施する。</p> <p>○一般市民に向けた広報活動として下関市、下松市、広島市において、山口県内3高専合同説明会を開催する。</p> <p>○中学校への出前授業を実施する。</p> <p>○中学校へのキャリア教育支援を行う。</p> <p>○元中学校校長をアドミッションアドバイザーとして登用する。</p> <p>○中学校訪問地区の拡大を図る。</p> <p>○従来の2回のオープンキャンパスに加えて、夏休みにキャンパスツアーを企画し、中学生が本校を訪れる機会を増やす。</p> <p>○機構本部が作成した広報用パンフレットを、学校説明会、オープンキャンパス、3高専合同説明会、キャンパスツアー等で配布する。</p> <p>○HPの充実や報道発表を積極的にを行い、地域における本校の知名度の向上に努める。</p> <p>○同窓会と連携した広報活動を行う。</p> <p>○広報活動WGを設置し、これまでに実施してきた広報活動を集約し、これからの広報活動戦略を検討する。</p>		
② 女子学生志願者の確保のため、「徳山高専女子百科Jr.」を作成し、この利活用を促進する。	<p>○本校を卒業し活躍する女性の情報を盛り込んだ「徳山高専女子百科Jr.」を作成し、中学生等に配布する。</p> <p>○広報活動で女子学生を積極的に活用し、女子学生の活躍をアピールする。</p> <p>○女子学生の就学環境の改善のため、女子寮、女子トイレ、女子更衣室等の現状を確認し、整備について検討する。</p>	○中期ビジョン①における「男女共同参画の環境整備」や「入学女性比率30%達成を目指す」に対応している。	○周南市まちづくり総合計画後期基本計画(平成22～26年度)II-2-2における「男女共同参画社会の推進」に対応している。
③ 入学者の学力水準を維持するため、適切な入試実施への取組を行う。	<p>○本校のアドミッションポリシーに沿った学生を適確に選抜するよう推薦入試と学力入試を実施する。</p> <p>○中学校の教育内容を確認した上で、適切な推薦入試を行う。</p> <p>○平成26年度入試の反省を活かし、平成27年度入試の準備を周到に行う。</p> <p>○正確公正に入試業務を行う。</p>		
(2) 教育課程の編成等			
① 産業構造の変化や技術の高度化、少子化の進行、社会・産業・地域ニーズ等を踏まえ、学科再編、専攻科の充実等を検討する。	<p>○第2期高度化改革検討WGで本校の改組再編(学科の新設、再編、コース制)を検討する。</p> <p>○周南3市の市長と面談し要望を伺う。</p> <p>○周南コンビナート地域の企業を訪問し、本校に対する期待や要望を伺う。</p> <p>○顧問会議を招聘し、意見を伺う。</p> <p>○本校の改組再編の検討結果に基づき、文部科学省「知(地)の拠点整備事業」に応募する。</p> <p>○専攻科の改組を検討するための基礎資料となる社会・産業・地域ニーズ等を調査する。</p>	○中期ビジョン⑧における「各高専・キャンパスの個性化(強み)の推進」に対応している。 ○中期ビジョン⑨における「高度なグローバル技術者を養成するための高専など、新しい高専モデルの構築」に対応している。	○周南市まちづくり総合計画後期基本計画(平成22～26年度)VII-1-5における「工業・新産業の振興」に対応している。 ○山口県産業戦略推進計画(平成25年7月策定)における「ものづくり産業等を支える人材の育成:具体的な取り組み」高専・大学の機能強化・企業ニーズに応じた学科等の新設」に対応している。
② 「数学」、「物理」に関しては「学習到達度試験」を実施する。TOEICやACEの一斉試験などを実施し、英語力の向上に努める。	<p>○学習到達度試験(「数学」、「物理」)を受験し、試験結果を分析する。</p> <p>○学習到達度試験の結果から、個々の学生の学習状況及び苦手分野を把握する。</p> <p>○学習到達度試験の結果を検証し、本校における学力の向上や教育のスキル向上に向けて強化すべき点、改善が必要な点を検討する。</p> <p>○TOEICやACEの一斉試験を実施し、結果を分析して、英語力の向上に取り組む。</p> <p>○各種英語検定試験を学生に周知し、受験しやすいようにできる限り校内で実施する。特にTOEIC IPテストは上限回数の年5回実施して受験機会を増やす。また、受験者の受験相談に応じたり、学習用教材を貸し出したりして自発的学習を奨励促進する。</p> <p>○リーディング力の伸長に効果が期待でき、TOEICリーディングの点数向上にもつながる多読授業を、平成26年度も継続して実施する。</p> <p>○ACE、TOEICでは、学年ごとに総学生の6割がクリアすべき数値目標(基準点)として定め、現在まで各学年ともにこの数値目標をクリアしている。しかし、目標設定以来見直がされたことがないため、社会情勢や他校の趨勢に照らして妥当な基準点であるかどうか検討する。</p> <p>○全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテストへの参加を募る。</p>	○中期ビジョン⑤における「国際化の推進」に対応している。	

徳山高専平成26年度 年度計画	徳山高専平成26年度計画の 具体的な課題・取組	中期ビジョンと年度計画との対照	自治体総合計画と年度計画との対照
	<p>○学習到達度試験の状況を参考に、基幹的専門科目のカリキュラム内容の点検を行う。</p> <p>○TOEICの活用状況を参考に、「英語講読」における授業内容の点検を推進する。</p> <p>○香港VTC学生などの留学生との英語を介したコミュニケーションにより、国際共通語の必要性を認識させる。</p> <p>○公表された学習到達度試験の状況を参考に、基幹的専門科目のカリキュラム内容の点検を行う。</p> <p>○TOEICの活用状況を参考に、「英語講読」における授業内容の点検を推進する。</p> <p>○公表された学習到達度試験の状況を参考に、基幹的専門科目のカリキュラム内容の点検を行う。</p> <p>○TOEICの活用状況を参考に、「英語講読」における授業内容の点検を推進する。</p>		
③ 学生による授業アンケートを実施し、これを教員にフィードバックし、授業改善に活用する。	<p>○全学生による授業アンケートを実施し、教員の授業改善に活用する。</p> <p>○授業アンケートの改善について検討を開始する。</p> <p>○全教員が、前年度の授業アンケート結果を含む「年間職務の自己評価」を実施する。</p>		
④ 全国的な競技会やコンテストに積極的に参加し、学生の意欲向上や高専のイメージの向上に資する。	<p>○ロボコン委員会、メカトロシステム部を中心に、全国高等専門学校ロボットコンテストに参加する。</p> <p>○ニューメディア部を中心に、全国高等専門学校プログラミングコンテストに参加する。</p> <p>○デザイン研究部を中心に、全国高等専門学校デザインコンテストに参加する。</p> <p>○英語に親しむ同好会を中心に、全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテストに参加する。</p> <p>○高専体育大会、高体連主催の大会、高野連主催の大会については、対応する部活動が中心となって各大会に参加する。</p> <p>○高野連の夏の甲子園予選会については、有志を募って応援団を結成し、大会参加学生の応援を積極的に行うとともに、学校を挙げて応援活動を行う。</p> <p>○アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテストに参加する。</p> <p>○周南市と協力して、市民参加型ロボットコンテスト「周南ロボコン」を開催する。</p> <p>○学生のロボコン、デザコン、CADコン、パテコンや、各種学協会や地域団体などの主催するコンテストへ積極的な応募を推進する。高専祭などに共催される地域ロボコンについても積極的な開催を推進する。</p> <p>○学生のプロコン、パソコン甲子園、情報オリンピックへの参加を推進する。</p> <p>○学生のデザコン、建築甲子園への参加を推進する。</p>		
⑤ ボランティア活動や合宿研修などの体験活動を実施する。	<p>○学生会を中心とした地域(平原地区)の清掃ボランティア活動に積極的に参加する。</p> <p>○ごみの分別の啓蒙活動、ごみリサイクルステーションの適正な運用、校内電力の省電力化啓蒙活動を学生会を中心に行う。</p> <p>○4月に1年生対象の新入生合宿研修、5月にIE2対象の合宿研修を実施する。</p>		
(3) 優れた教員の確保			
① 多様な背景を持つ教員の採用を促進する。	<p>○採用に当たっては公募によることとし、教授及び准教授については本校以外の高等専門学校や大学、高等学校、民間企業、研究機関における勤務経験を有し、又は1年以上海外で研究や経済協力に従事した経験を有するものが全体として60%を下回らないようにする。また、採用後の国内外における研修を活用する。このため、適切な平成26年度教員選考方針を策定し、教員組織の目標達成に努める。</p> <p>○教員の採用、昇任については、校長が基本方針を毎年度定め、その方針に沿って実施する。</p>		
② 「高専・両技科大間教員交流制度」の活用について検討する。	<p>○教員の力量を高め、学校全体の教育力の向上にむけ、高専・両技科大間教員交流制度を活用するため、平成27年度以降の進め方について検討する。</p>	○中期ビジョン③における「技術科学大学など他機関との連携協働、社会ニーズに対応した研究開発の活性化」に対応している。	
③ 優れた教育能力を有する教員の採用を促進する。	<p>○専門科目(理系の一般科目を含む。以下同じ。)については、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度な資格を持つ者、理系以外の一般科目については、修士以上の学位を持つ者や民間企業等における経験を通して高度な実務能力を持つ者など優れた教育力を有する者を採用する。</p> <p>○上記の要件に合致する者を専門科目担当の教員については全体として70%を、理系以外の一般科目担当の教員については全体として80%を下回らないようにするため、的確な平成26年度教員選考方針を策定し、教員組織の数値目標を達成する。</p>		
④ 女性教員の積極的な採用・登用を推進する。	<p>○女性教員の採用を促進するため、女性の働きやすい職場環境の在り方について個別面談の場等で女性教員の意見を引き続き聴く。</p> <p>○女性教員の就業環境改善のため、女性教職員休養室に更衣スペースの設置を検討する。</p>	○中期ビジョン①における「男女共同参画の環境整備」や「新規採用教員女性比率30%の達成」に対応している。	○周南市まちづくり総合計画後期基本計画(平成22～26年度)II-2-2における「男女共同参画社会の推進」に対応している。
⑤ 教員の能力向上を目的とした教員研修(ファカルティー・ディベロップメント)を推進する。	<p>○平成25年度のFD活動について、個人別および部署別にとりまとめ、ホームページで公開する。なお、様式をより整理しやすい形に改める。</p>		

徳山高専平成26年度 年度計画	徳山高専平成26年度計画の 具体的な課題・取組	中期ビジョンと年度計画との対照	自治体総合計画と年度計画との対照
	<p>○平成26年度は「教育力・教師力の向上」をテーマとして全ての教員が参加できる教員研修を4回開催する。</p> <p>○高等学校および中学校教員経験者による教員研修を実施する。</p> <p>○近隣大学等が開催するティーチング・ポートフォリオ(TP)作成セミナーに参加し、本校におけるTPの作成件数を増やすとともに、その公開を検討する。</p> <p>○教員研修の効果の検証を行う。</p> <p>○「年間職務の自己評価」結果を精査し、平成27年度の活動方針を検討し年間活動計画を策定する。</p> <p>○教員のキャリアパス形成を補助するためのツールとしてe-ポートフォリオ(教員キャリアサポートプログラム)の導入を検討する。</p>		
(4)教育の質の向上及び改善			
①モデルコアカリキュラムの導入、ICTを活用した教材や教育方法の開発を推進する。	<p>○モデルコアカリキュラム導入WGでの検討を月1回程度行う。</p> <p>○企業技術者活用経費を、複合学科のモデルコアカリキュラム「徳山モデル」の確立をテーマとしたプランで申請する。</p> <p>○整備が終了したICT教室の利活用方法の検討を開始する。</p> <p>○e-learning(WebClass)普及のための環境整備および利用の拡大を図る。</p>		
② JABEE認定プログラムの継続認定審査を受審し、教育の質の向上に努める。	○JABEEの継続認定審査を受審する。		
③ サマースクールや国内留学等の学生の交流活動を促進する。	<p>○学生のサマースクールや国内留学等の高専の枠を超えた学生の交流活動を応援する。</p> <p>○中国地区高専執行長会議に学生を積極的に参加させる。</p> <p>○全国高専学生会交流会に参加希望があった場合には、積極的に参加させる。</p>		
④ エンジニアリングデザイン教育やPBLの導入など、教育方法の改善を促進する。	<p>○エンジニアリングデザイン教育について、組織的に教育コンテンツを検討する。</p> <p>○数物教科のカリキュラム再編、数物教育と専門教育の連携を目指し、数学および物理に関する科目間調整会議を開催する。また、専門教育において必要不可欠な数学、物理に関する基礎知識を精査する。</p> <p>○一部の教養科目について試行的に英語で授業を行い、その教育的効果を検証する。</p> <p>○モデルコアカリキュラムの到達目標達成のため、低学年の理数系一般科目(生物基礎)において授業でPBLを試験的に実施し、その成果を検証する。</p> <p>○総合データベースのエンジニアリングデザイン教育等に係る取組事例集の活用について検討する。</p> <p>○総合データベースのエンジニアリングデザイン教育等に係る取組事例集の活用について検討する。</p> <p>○総合データベースのエンジニアリングデザイン教育等に係る取組事例集の活用について検討する。</p> <p>○「複合技術商品の導入により知識を知恵に変えるものづくり教育プラン」の成果を生かし、エンジニアリング・デザイン教育プログラムを構成する「総合実験」「総合演習」を継続して実施しつつ、内容や評価方法の改善を図る。</p>	○中期ビジョン①における「PBLなどアクティブ・ラーニングの割合の増加」などに対応している。	
⑤ 高等専門学校機関別認証評価受審への準備を計画的に進め、教育の質を保つために、指摘事項の改善に取り組む。	<p>○各年度で実施される自己評価、高等専門学校機関別認証評価、JABEE受審などの評価結果を公開する。</p> <p>○「学習教育目標の周知度」の向上に取り組む。</p> <p>○指摘事項を改善するための取り組みを総合データベースで共有する。</p>		
⑥ 「インターンシップ」等を実施し、企業と連携した「共同教育」を推進する。	<p>○機械電気工学科2年生のインターンシップを行う。</p> <p>○全学科の4年生のインターンシップを行う。</p> <p>○専攻科1年生では長期(2ヶ月～3ヶ月)のインターンシップを行う。</p> <p>○テクノ・アカデミア会員企業を中心に県内企業のインターンシップ受け入れを働きかける。</p> <p>○就活キャリア教育(企業活動などの説明会)を通し、県内企業との共同教育を推進する。</p>	○中期ビジョン③における「社会ニーズに対応した研究開発の活性化」に対応している。	○周南市まちづくり総合計画後期基本計画(平成22～26年度)VII-1-5における「工業・新産業の振興」に対応している。
⑦ 企業技術者や外部の専門家と協働した教育を推進する。	<p>○企業技術者活用経費で産学連携コーディネータの活用申請を行う。</p> <p>○文部科学省の「知(地)の拠点正義事業」で周南コンビナートの企業技術者の活用申請を行う。</p> <p>○専攻科の講義(産業論)で企業技術者を活用する。</p> <p>○土木建築工学科5年生の技術者倫理で企業技術者(技術士)を活用する。</p> <p>○産学官連携コーディネータを中心に、企業人材(特に地元企業人材)活用の方策について検討する。</p>	○中期ビジョン⑦における「社会連携の推進」などに対応している。	○周南市まちづくり総合計画後期基本計画(平成22～26年度)VII-1-5における「工業・新産業の振興」に対応している。
⑧ 長岡・豊橋両技術科学大学と連携し、教員の研修、教育課程の改善などを推進する。	<p>○ISTSへの参加を学内に促す。(ISATEは、本年度の開催日が、本校の40周年記念事業と重なった。)</p> <p>○長岡、豊橋との連携に関連したイベントへの参加を促す。</p>	○中期ビジョン③における「技術科学大学など他機関との連携協働」に対応している。	

徳山高専平成26年度 年度計画	徳山高専平成26年度計画の 具体的な課題・取組	中期ビジョンと年度計画との対照	自治体総合計画と年度計画との対照
	○長岡技術科学大学が主導する「システム安全サブエンジニア」プログラムに参加する。 ○ISTSに積極的に参加する。		
⑨ ICTを活用した教育を推進する。	○ICT教育環境の整備を行うためのパイロットスタディーを行う。 ○ICT活用教育の推進を促す。 ○補正予算により施設整備が終了したICT教室の利用方法を検討し、利用を促進する。 ○WebClassの利用を促進する。 ○情報処理センターの視聴覚システムの整備・更新を行う。 ○教室内無線Lanの活用を検討する。 ○e-learningコンテンツを収集する。	○中期ビジョン①における「PBLなどアクティブ・ラーニングの割合の増加」などに対応している。	
⑩教育点検システムの評価を実施する。	○各部署は、今年度の活動方針、活動計画を明確にするとともに、前年度の活動状況等をとりまとめ、それぞれの部署における点検システムが機能しているか否かを評価し報告する。総合企画室(自己評価WG)では、各部署でとりまとめられた活動報告の内容を確認し、本校全体として教育点検システムが機能しているか否かを判断する。		
⑪年間職務の自己評価を実施する。	○定められた自己評価の実施方法に従い、教員は、前年度における年間職務の自己評価を行う。		
(5) 学生支援・生活支援等			
① 学生に対するメンタルヘルス・就学・生活に関する支援を推進する。	○2名の特別支援教育士資格の修得を支援する。 ○全国国立高等専門学校メンタルヘルス研究集会への参加を支援する。 ○日本学生相談学会の研修会への参加を支援する。 ○日本学生支援機構の学生支援に関する研修への参加を支援する。 ○発達障害と思われる学生に対してチューターによる支援を行う。 ○学習ルームを開設し、支援の必要な学生の発掘、協同学習による支援ネットワークの起点とする。 ○新入生に対して、アンケートや各種の検査を実施し、その結果の分析やそれに伴う相談を実施する。		
② 学生寮、図書館、福利厚生センター、合宿研修施設などの実態を調査し、その結果を踏まえた整備計画の見直しを行い、整備を推進する。	○福利厚生センターや合宿研修施設の利用状況を把握し、修繕が必要な箇所の特定制定を行う。その結果を施設マネジメント委員会に報告する。 ○福利厚生施設、体育施設などについては安全面などの観点から積極的に点検を今後定期的に行い、今後10年の設備整備計画を作成し、同委員会へ提出する。 ○今後の女子学生、留学生の確保を推進するために学生寮等における必要な設備についても併せて見直しを行い、魅力のある施設として整備を計画する。 ○学生寮の居住環境について現状を把握し、寮生の快適な環境を確保するため、修繕年次計画を作成し、整備計画を検討する。 ○稼働率の高い電動自転車の保管場所の確保、捕食室等の壁面の補修を計画する。 ○図書館の利用に関し、学生アンケートなどにより、必要であれば利用促進に向け、対策を講じる。	○中期ビジョン①における「男女共同参画の環境整備」に対応している。 ○中期ビジョン⑤における「国際化の推進」に対応している。	○周南市まちづくり総合計画後期基本計画(平成22～26年度)I-2-5における「国際交流・都市間交流の促進」、II-2-2における「男女共同参画社会の推進」に対応している。
③ 各種奨学金制度の積極的な活用を促進する。	○日本学生支援機構の応募を積極的に呼びかける。 ○企業の奨学金制度の通知があったら、積極的に紹介する。 ○年度末に変換精度の説明会を行い、奨学金を返還することの意義を分かってもらい、返還遅延がないようにさせる。		
④ キャリア形成支援の充実を図り、高い就職率を維持する。	○中学校や普通高等学校におけるキャリア教育の取組について調査する。 ○キャリア学習履歴管理システム「きゃりPi」の求人情報データベースを改良し、総合的な進路情報データベースとして活用することによって進路支援を充実させる。 ○「徳山高専女子百科Jr.」に本校を卒業し社会で活躍する女子学生の記事を取り込み、これを配布し、女子学生志願者の確保および女子学生のキャリア形成支援に取組む。		○周南市まちづくり総合計画後期基本計画(平成22～26年度)VII-1-5における「工業・新産業の振興」に対応している。

徳山高専平成26年度 年度計画	徳山高専平成26年度計画の 具体的な課題・取組	中期ビジョンと年度計画との対照	自治体総合計画と年度計画との対照
(6)教育施設の整備・活用			
①教育施設・設備について全学的な視点に立った施設マネジメントに基づいた整備計画の見直しを行う。	○施設整備要求の根拠として、施設の老朽狭隘状況をキャンパスの現状把握及び課題の抽出としてまとめ、省エネルギー計画を含む修繕年次計画の作成を行い、整備を計画する。		
②施設の耐震化を計画的に推進する。	○非構造部材の耐震化として、屋内運動施設の耐震改修を計画する。		
③学生及び教職員に「実験実習安全必携」を配付し、安全衛生管理のための各種講習会を実施する。	○学生及び教職員に「実験実習安全必携」を配布する。 ○各授業での安全教育を実施する。 ○安全にかかわる施設環境調査・改善を行う。 ○技術職員の資格取得、講習受講を計画的に実施する。 ○教職員への安全講習を実施する。		
④男女共同参画に関する情報を適切に提供するとともに、ワークライフ・バランスを推進するための意識醸成等に努める。	○機構本部が行う女性教職員に対する支援事業について、教職員に周知するとともに、該当女性教職員に対し、積極的に情報を提供する。 ○女性教職員からの意見を参考にしながら、男女共同参画推進委員会において、女性にとって働きやすい職場環境の改善を検討する。 ○「教員キャリア形成プログラム」の構築を検討する。	○中期ビジョン⑩における「男女共同参画の環境整備」や「新規採用教員女性比率30%の達成を目指す」に対応している。	○周南市まちづくり総合計画後期基本計画(平成22～26年度)II-2-2における「男女共同参画社会の推進」に対応している。
2 研究や社会連携に関する事項			
① 全国高専テクノフォーラムに参加し、研究成果を発信する。また、各高専での科学研究費助成事業等の外部資金獲得に関する好事例の活用を検討する。	○全国高専テクノフォーラムに参加し、情報収集を行う。 ○テクノフォーラム展示など発表参加者への支援を行う。 ○機構が提供する外部資金に関するデータベースの活用を検討する。	○中期ビジョン③における「取得特許の活用促進」や「外部資金の増加」に対応している。	
② 研究成果について広く社会に公表する。また、テクノ・リフレッシュ教育センターや産学官連携コーディネーター等を活用し、産業界や地方公共団体との新たな共同研究・受託研究の受入れを促進する。	○テクノ・リフレッシュ教育センター施設(ピロティエなど)の有効活用を促進するため、利用料の助成制度について、テクノ・アカデミア事業となるように協議する。 ○産学官連携コーディネーターを募集し、採用する。 ○徳山高専テクノ・アカデミアでセミナーを開催し、産学官の連携を強化する。 ○徳山工業高等専門学校研究紀要を発行し、徳山高専教職員の研究成果の周知と普及に努める。その状況を把握するとともに便宜を図るため、開校以来の教職員の研究実績の推移をまとめ掲載する。	○中期ビジョン③における「取得特許の活用促進」や「外部資金の増加」に対応している。	○周南市まちづくり総合計画後期基本計画(平成22～26年度)VII-1-5における「工業・新産業の振興」に対応している。
③ 研究成果の円滑な知的資産化及び活用に向けた取り組みを促進する。	○産学官連携コーディネータを中心として、大学・高専などの知的財産利用に関する状況調査を行い、研究成果の知的資産化の施策を検討する。	○中期ビジョン③における「取得特許の活用促進」や「外部資金の増加」に対応している。	○周南市まちづくり総合計画後期基本計画(平成22～26年度)VII-1-5における「工業・新産業の振興」に対応している。
④ 技術シーズを地域社会に広く情報発信する。	○メディア戦略の専門業者に依頼し、産学官連携コーディネータを中心に広報戦略を検討する。	○中期ビジョン③における「取得特許の活用促進」や「外部資金の増加」に対応している。	○周南市まちづくり総合計画後期基本計画(平成22～26年度)VII-1-5における「工業・新産業の振興」に対応している。
⑤ 公開講座等を計画的に実施する。	○公開講座、ジュニア科学教室等を計画的に実施する。 ○公開講座、ジュニア科学教室に関してアンケート調査を行い、実施効果を講座担当者にフィードバックする。 ○周南市と協力して、地域の小学生、中学生、高校生、高専生、大学生および一般市民が参加出来る市民参加型ロボットコンテスト(周南ロボコン)を開催する。 ○周南市街地に位置する徳山高専サテライト「徳山高専夢広場」を活用して、「いんぐりっしゅ☆るーむ」、「パソコン若葉教室」、「サイエンスアゴラ」、「哲学カフェ」、「まちなかの小さな卒研発表会」、「留学生ふるさと展」等を引き続き開催し、地域との交流を促進する。 ○公開講座等で実施可能なコンテンツを調査・集約し、それらをリストアップしたパンフレットを作成して小中学校等へ配布する。	○中期ビジョン⑦における「社会連携の推進」に対応している。	○周南市まちづくり総合計画後期基本計画(平成22～26年度)I-1-2における「生涯学習の推進」に対応している。

徳山高専平成26年度 年度計画	徳山高専平成26年度計画の 具体的な課題・取組	中期ビジョンと年度計画との対照	自治体総合計画と年度計画との対照
3 国際交流等に関する事項			
①海外の教育機関との交流活動を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ISTSおよびISATEへの積極的な参加を促進する。 ○香港VTC(中国)、シンガポールポリテクニク(シンガポール)、グリフィス大学(オーストラリア)との学生交流を実施する。 ○教員一名を在外研究員制度を利用してドイツに派遣する。 ○FD活動の一環としてタイニテ工業大学(タイ)への教員の派遣を検討する。 ○他の高専で締結している海外の教育機関との学術交流協定に基づく具体的な交流活動を調査し、その活用を検討する。 ○海外の教育機関との相互交流を実施することにより、優れたグローバルエンジニアを養成するためのプログラムを再検討する。 ○グリフィス大学(オーストラリア)、チェコ工科大学(チェコ)との学術協力協定継続のための手続きを行う。 ○国際協力機構(JICA)の協力も得つつ、ミャンマーにおける技術者高等教育の調査研究を実施し、高専教育システム導入の有効性について検討を行う。 ○昨年度開始した岩国米軍基地内 M.C.Perry High School との交流事業を継続して実施する。 	○中期ビジョン⑤における「国際化の推進」などの全体に対応している。	○周南市まちづくり総合計画後期基本計画(平成22～26年度)1-2-5における「国際交流・都市間交流の促進」に対応している。
②日本学生支援機構の奨学金制度等を積極的に活用し、語学研修、海外留学、海外インターンシップを実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ○オーストラリアにおける語学留学を実施する。 ○ワランゴン大学(オーストラリア)または台北科技大学において、専攻科生の中長期海外インターンシップを実施する。 ○日本学生支援機構の支援金を活用し、香港VTC(中国)、シンガポール・ポリテクニク(シンガポール)、グリフィス大学(オーストラリア)への学生派遣を実施する。 ○日本学生支援機構の留学支援金(平成27年度)を申請する。 	○中期ビジョン⑤における「海外大学等との教職員・学生交流、教育・技術支援」などに対応している。	○周南市まちづくり総合計画後期基本計画(平成22～26年度)1-2-5における「国際交流・都市間交流の促進」に対応している。
③留学生の受入れに必要となる環境整備を推進する。	○留学生の受入拡大や快適な居住環境の確保のため、宿泊施設等の一部改装を検討する。	○中期ビジョン⑤における「国際化の推進」に対応している。	○周南市まちづくり総合計画後期基本計画(平成22～26年度)1-2-5における「国際交流・都市間交流の促進」に対応している。
④留学生に対する研修等を企画し、実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ○留学生の研修旅行を実施する。 ○地元ライオンズクラブのイベントを活用する。 ○留学生のスピーチコンテストに参加を促す。 	○中期ビジョン⑤における「国際化の推進」に対応している。	○周南市まちづくり総合計画後期基本計画(平成22～26年度)1-2-5における「国際交流・都市間交流の促進」に対応している。
4 管理運営に関する事項			
①教職員のコンプライアンスの向上及び健康管理に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ○機構本部が示すコンプライアンス・マニュアルに基づき、教職員全員がセルフチェックを実施し、コンプライアンス意識の向上を図る。 ○諸規則の制定・改正については、遅滞なく教職員に周知し、その内容について解説するなど、教職員の理解度の向上を図る。 ○発注者と納品検収者が別となることを徹底する。 ○会計担当職員のスキルアップのため、機構本部主催の研修会に参加させ、参加者から研修内容をその他の会計職員に周知させる。 ○学生課図書係の発注・検収業務を総務課契約係に集約する。 ○労働安全衛生法に基づく定期健康診断等の受診率向上のため、周知徹底を図る。 ○メンタルヘルスに関する研修会を実施する。 		
②公的研究費等に関する不正使用の再発防止策を確実に実施し、不適正経理の防止に努める。	○「公的研究費等に関する不正使用の再発防止策」の取り組みを実施する。		
③事務職員や技術職員の能力向上を図るための研修会に参加する。	<ul style="list-style-type: none"> ○技術職員の能力の向上のため、中国地区高等専門学校技術職員研修等を活用し、必要な研修を計画的に実施するとともに、公的機関が認証する技術的な資格を積極的に取得させる。 ○事務職員の能力向上のため、機構本部主催の研修会に参加させるとともに、文部科学省、人事院及び大学等の他機関が開催する研修にも参加させる。 ○事務職員や技術職員の能力向上を図るための研修会を実施する。 		
④事務職員及び技術職員については、国立大学や高専間などの人事交流を積極的に推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ○事務職員について、国立大学や高専間などの人事交流を積極的に推進する。 ○技術職員について、国立大学や高専間などの人事交流について検討する。 	○中期ビジョン⑩における「教職員人事が柔軟にすすめられるような体制づくり」に対応している。	
⑤情報セキュリティ対策の見直しを進め、教職員の情報セキュリティ意識向上のため、必要な研修を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ○情報セキュリティポリシー等の運用上の問題を整理する。 ○教職員の情報セキュリティ意識向上のための研修について、eラーニングを活用し実施する。 ○情報担当者研修会やIT人材育成研修会を引き続き実施し、また、校長・事務部長を対象とした情報セキュリティに関するトップセミナーを実施する。 		
⑥機構の中期計画および年度計画を踏まえ、個別の年度計画を定める。また、各学科の特性に応じた具体的な成果指標を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ○機構の中期計画及び年度計画を踏まえ、本校の第3期中期計画及び年度計画を定める。 ○本校の特性に応じた具体的な成果指標を検討する。 ○徳山高専の中期計画および年度計画を踏まえ、一般科目の年度計画を定める。 ○一般科目の特性に応じた具体的な成果指標を検討する。 		

徳山高専平成26年度 年度計画	徳山高専平成26年度計画の 具体的な課題・取組	中期ビジョンと年度計画との対照	自治体総合計画と年度計画との対照
	<p>○新しいメカトロニクス技術動向を踏まえた授業内容・環境の点検・見直しを行う。 ○優秀で適性の高い入学志願者確保のために、学科紹介の内容や広報活動について検討する。 ○各種資格取得への支援を行う。 ○学科の特性に応じた具体的な成果指標について検討する。 ○インターンシップ制度の積極的推進により、最先端メカトロニクス生産技術情報の活用をはかる。</p> <p>○新しい情報・電子・通信技術動向を踏まえた授業内容・環境の点検・見直しを行う。 ○優秀な入学者確保のための学科紹介について、検討する。 ○基本情報技術者試験合格への支援を行う。 ○電気工事担任者資格取得への支援を行う。 ○学科の特性に応じた具体的な成果指標について検討する。</p> <p>○新しい土木・建築技術動向を踏まえた授業内容・環境の点検・見直しを行う。 ○優秀な入学者確保のための学科紹介ポスターを作成し、中学校へ出向いて学科説明会を実施する。 ○二級建築士試験合格への支援を行う。 ○学科の特性に応じた具体的な成果指標について検討する。</p>		
⑦「防災マニュアル」等に基づき危機管理へ対応する。	<p>○地震等災害発生時には、「防災マニュアル」(平成23年3月制定)に基づき危機管理へ対応する。 ○事故や急病の発生時には、リスク管理室で定めた手順に従い、これに対応する。</p>		
⑧学内の監査体制を強化し、高専相互会計内部監査の指摘事項への対応を行う。	<p>○会計伝票の監査体制を見直し、各担当者のチェック項目を明確にし分担して実施する。 ○計画的な物品の現品検査を実施するとともに、物品管理役交替に伴う交替検査を徹底する。 ○適正な毒劇物の管理を徹底する。</p>		
⑨資産の有効活用方策を検討し、徹底したIT資産の管理を継続する。	<p>○施設マネジメント委員会において資産の有効活用方策について検討する。 ○教職員宿舍の廃止に向けた検討を行う。 ○IT資産をこれまでと同様、徹底して管理する。</p>		
II 業務運営の効率化に関する事項			
①一般管理費の見直しを実施し、削減に取り組むとともに、契約は原則として一般競争契約とし、随意契約の見直しを行う。	<p>○一般管理費について、光熱水費の削減の徹底を全教職員に促し、また業務の見直しにより、更なるコストの削減を図る。 ○契約は、原則として一般競争契約とし、企画競争や公募を行う場合は競争性、透明性の確保を図る。 ○校長裁量経費を活用して機動的な資金投入を行う。 ○光熱水費や電信電話、通信運搬等、慣例的に随意契約を行っている契約についても見直しを行い、競争契約の実施について検討する。</p>		
III 予算			
収益の確保、予算の効率的な執行、適切な財務内容の実現			
①共同研究、受託研究、寄附金、科学研究費助成事業などの外部資金の獲得に積極的に取り組み、自己収入の増加を図る。	<p>○科学研究費助成事業などの外部資金獲得のための説明会等を実施し、積極的な応募を促進し、自己収入の増加を図る。</p> <p>○共同研究、受託研究、奨学寄付金、科学研究費補助金などの外部資金の獲得に積極的に取り組み、自己収入の増大を図るため、外部資金獲得のための情報収集を積極的に行い、教員へ応募を依頼する。科学研究費補助金等の応募においては希望者には申請書校閲を実施し、資金獲得に向けた援助を行う。</p>	○中期ビジョン③における「外部資金の増加」に対応している。	
IVその他主務省令で定める業務運営に関する事項			
1 施設及び設備に関する計画			
①施設・設備についての実態調査や施設管理に係るコスト等の調査を実施し、全学的な視点に立った施設マネジメントに基づいた整備計画の見直しを行い、老朽施設設備の改善を計画的に推進する。	<p>○施設整備要求の根拠として、施設の老朽狭隘状況をキャンパスの現状把握及び課題の抽出としてまとめ省エネルギー計画を含む修繕年次計画の作成を行い、整備を実施する。</p>		

徳山高専平成26年度 年度計画	徳山高専平成26年度計画の 具体的な課題・取組	中期ビジョンと年度計画との対照	自治体総合計画と年度計画との対照
2 人事に関する計画			
①教職員の積極的な人事交流を進め、多様な人材育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し資質の向上を推進する。	○国立大学や高専間などの人事交流を積極的に推進する。 ○教職員を対象とした機構本部が実施する階層別、業務別の各種研修会に積極的に参加させる。		